

任国あんなこと!こんなこと!

☆次回から特集テーマを決めて掲載します。☆
マニラの投稿大歓迎!!

フィリピン・マニラの交通事情

(小林 宏 会員)

8月にマニラ中心部から南に15kmに位置する「金属工業研究開発センター(MIRDC)」に派遣された時の事である。通勤方法をいろいろ検討した結果、結局安全と利便を考え前任者の私有車(1994年式トヨタ コロナ1600cc、免税車)を安く譲り受け、また現地の道路事情に強いドライバー(元、マニラ市内のタクシー・ドライバー)も引き継いだ。ドライバーは、体格の良い若者(既婚者)で前任者の躰が良く安全運転に徹して1年間の任期期間を無事故・無違反でかつ安全に過ごすことが出来た。朝早く、彼は私の宿泊所に来て研究所に出かけるが、途中マニラ首都圏市内は通勤時間で凄く混雑しているので「臨機応変[抜け道]」を利用した。市内から高速道路に入ると空いていて快適である。ドライバーは研究所に到着後は、私が帰るまではドライバーのたまり場で私の公用外出に備えてドライバー仲間と過ごしていた。(契約の拘束時間)

道路の状況は、市の中心部でも舗装の質はあまり良くなく所々に穴が開いていて、タイヤの寿命は日本と比べるとズーッと短い様だ。自動車のメンテナンスは、定期的にJICA青年協力隊員であった人が経営する自動車修理工場にてタイヤのチェック、オイル量のチェックと補充、ブレーキの点検・保守などドライバーの意見を聞いて行った。

オフタイムには、ショッピング、理髪、医者、金融機関などに行くときはフルに活用したが特に、ショッピングのときは道案内、兼荷物の運搬人、兼商品の探索、兼護衛で非常に助かった。ただ、単独の遠出は安全のため自粛した。マニラ市内、道路舗装の質の向上(道路のメンテナンス)と特に、交差点の混雑対策(例、立体交差にするなど)が望まれよう。

トップマネジメントの品質管理

(関口 克 会員)

JICAが実施するセミナーで日本の品質管理について講義をしていた時、研修生から、「同じ日本のブランドの製品であるのに、日本で作られた製品とその他の国で作られたOEM製品では、品質に差があるように思われる。設計や仕様を変えているのではないのか。」という質問を受けた。私は直ちに、「そのようなことは日本の企業では絶対にありえない。もしユーザーの評価が事実であるとするならば、日本国内とOEM先の企業における、品質管理に対するトップマネジメントの経営思想の違いがその原因であろう。」と答えた。

日本の企業は、「お客様の満足」を目標とする品質管理システムの完全な実施に向けて、トップマネジメント、中間管理者、生産ラインの作業員、さらに下請け、原材料供給業者まで、製品およびサービスのすべてのプロセスに携わる人が、「品質第一」の基本理念を持って全力で取り組んでいる。どれ一つが欠けても「お客様の満足」は得られないが、特にトップマネジメントの経営姿勢が最も重要な要因となる。日本の優良企業では、全社員を対象に品質管理の教育を計画的・継続的に実施し、徹底した品質の維持・改善を全員で実施している。私がJICAの仕事で、フィリピンのマニラ近郊にある松下電器の工場を訪問したとき、建物の壁面に“Make people, before making products.”と刻まれた言葉が印象に残った。この経営思想こそ高い品質の製品を作り出す秘訣であり、JICAが実施する技術移転の基本理念と整合するものであると、感銘を受けた次第である。

(注)OEM:Original equipment manufacturing
= 相手先ブランドによる商品の製造

赤道直下の月の満ち欠け

(大久保 卓次 会員)

20数年も前のことになりますが、赤道直下のケニアへ専門家として赴任しました。子供の頃から、赤道では太陽が天頂を通過し自分の影ができないという話に、いつか実体験したいものと思っていました。車が届いてすぐ、家族を連れて昼前に赤道地点へ着けるよう出発しました。真昼の赤道地点では、「On The Equator」の看板の影が看板の厚さだけ一本の線になっていました。感激でした。訳のわからない子供を立たせ足元だけ陰になっている証拠の写真を撮りました。

次に疑問を持ったことは、月の満ち欠けです。ナイロビも都会化し、星空はそれ程星が一杯と言うほどでもなかったのですが、夜空を見上げることがしばしばありました。日本での半月は縦方向に欠けているのに、ケニアの半月はほとんど水平に欠けているのではないですか。緯度が違うのは理解しているのですが、なぜなのかしばらく疑問を感じながらも解決には至りませんでした。ある晩、カジノへでも出かけた帰りでしょうか、天頂に満月がこうこうと輝いていました。当然のことですが、月も太陽と同じに東から昇って天頂を通り過ぎていくのです。やっと疑問が解決しました。天頂を通過して西へ沈んで行く途中、普通日本で見る月と同じような斜め上方の角度に来た時には、半月は水平に欠けて見えるのでした。

2度目のインドネシア

(高垣 泰雄 会員)

9月13日に着任して以来、怒涛の2ヶ月が過ぎ、イスラム国家ゆへの断食明け大祭のゴールデンウィーク休暇を迎え、ホッとしているところです。私は平成5年から3年間フェリー港計画担当としてインドネシア国運輸省陸運総局に勤務した経験があり、今回は「港湾分野の維持・管理技術の普及促進プロジェクト」担当として、海運総局に勤務しています。

今年は独立以来初めての国民による直接大統領選挙が実施され、旧メガワティ政権から新大統領スシロ・バンバン・ユドヨノ氏へ、当初懸念されたような騒動もなく粛々と政権交代となり、国民の全てが希望と期待を胸に、熱いまなざしをもって今後の展開を見守っているところです。大統領が変わっても、社会環境、経済環境は何ら変わってはいません。従来から進められている地方分権化政策にしても、今まではお題目のみで、予算や税金等の中央/地方への資金の流れは従来どおりであったものが、今後の改革によってどこまでメスが入られるのか、既得権益を有していた者と新たに権益を得られるかもしれない者の確執、国民は改革に痛みが伴うことを理解しどこまで受け入れられるのか、今はまだ混沌としています。インドネシアでは、従来公社組織と直轄組織によって港湾を維持してきましたが、今後地方政府へ権限委譲が進められてゆくこととなります。私もその現場のど真ん中に位置して、どこまで支援ができるのかじっくりと腰を据えて見守りつつ、適切なアドバイスを心掛けていきたいと考えています。

- お知らせ -

1. YIC人事異動

- ・旧職に属しますが小森所長が退任され後任として沢地所長が着任されました。
- ・JECK担当の熊野主査が北陸支部に移動されました。
- ・お世話になった阿久津さんが退任されました。

2. 国際協力室の新しい仲間

- ・JICAシニアボランティアの会である「シニアボランティアを生かす会神奈川支部」同じYIC3Fの我々の事務所にも事務局を開設され、JECKと交流を深めることになりました。

JICA帰国専門家連絡会かながわ会報 第4号

発行 2005年1月

発行者 JICA帰国専門家連絡会かながわ(JECK)

事務局 谷保 茂樹(e-mail:Staniho@aol.com)

横浜市青葉区青葉台1-3-9

株式会社ティーエーネットワークイング内

編集委員会 中野園賢治(代表幹事)(e-mail:zvs04325@nifty.ne.jp)

佐藤満寿哉、鈴木千明、物部宏之、谷保茂樹

印刷 横浜リテラ(URL: http://www.yokohamalitera.com/)

(e-mail: info@yokohamalitera.co.jp)

横浜市戸塚区上矢部町2039-2